

平成30年度使用小学校用
「特別の教科 道徳」

教科用図書調査報告書

平成29年7月

津市教科用図書調査研究委員会

1 調査の基本的態度

平成30年度から使用する「特別の教科 道徳」の小学校用教科書の調査研究に当たっては、平成30年度津市教科用図書調査研究委員会において定めた「小学校用教科用図書の調査実施項目」に従って、教科書見本本、内容解説資料、教科書編集趣意書及び三重県教育委員会が作成した「平成30年度使用小学校用 特別の教科 道徳 教科書選定に関する参考資料」以外の資料等を排除し、公正かつ客観的な調査研究に努めた。

2 調査結果のまとめ

調査結果のまとめに当たっては、教科書1点ごとに特色等を記述した。記述の順序は、文部科学省発行の「小学校用教科書目録」に記されている発行者番号の順とした。

3 平成30年度使用小学校用教科書（道徳）の発行者一覧

発行者の番号	発行者	略称
2	東京書籍株式会社	東書
1 1	学校図書株式会社	学図
1 7	教育出版株式会社	教出
3 8	光村図書株式会社	光村
1 1 6	日本文教出版株式会社	日文
2 0 8	株式会社光文書院	光文
2 2 4	株式会社学研教育みらい	学研
2 3 2	廣済堂あかつき株式会社	廣あかつき

小学校教科用図書の調査実施項目

1 取扱内容

教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び学習指導要領に定める教科の目標を達成する上において、より適切かつ効果的であるか。

2 内容の選択及び扱い

- (1) 選択と扱いは、学習指導を進める上でより適切であるか。
- (2) 児童の日常生活・経験及び興味・関心に対する配慮がなされており、自主的・自発的な学習を指導する上でより適切であるか。
- (3) 他の教科等との関連が必要に応じ配慮されているか。
- (4) 発展的な学習内容が主たる内容の学習に資するものであるか。
- (5) 地域の実態等に照らしてより適切であるか。

3 内容の程度

内容の程度は、児童の心身の発達段階と特性に適応しているか。

4 内容の構成及び配列

- (1) 構成及び配列は、学習指導上、より適切かつ効果的であるか。
- (2) 文章、さし絵、図表、写真、用語などの表記はより適切であり、これらに不統一や無用の重複はないか。

5 創意工夫

- (1) 教科の目標とする能力や態度を育成する上に、適切な創意工夫が認められるか。
- (2) 教科の内容の精選が十分なされており、基礎的・基本的事項の理解や修得の徹底を図る上に、適切な創意工夫が認められるか。
- (3) 選択、扱い、構成、配列、表現などに適切な創意工夫が認められるか。

6 使用上の便宜

- (1) 判型、印刷、製本が、学習指導上、より適切であるか。
- (2) 文字の大きさ、字間・行間及び書体は、学習指導上、より適切であるか。

7 その他

目 次

東京書籍株式会社	1
学校図書株式会社	3
教育出版株式会社	5
光村図書株式会社	7
日本文教出版株式会社	9
株式会社光文書院	11
株式会社学研教育みらい	13
廣済堂あかつき株式会社	15

平成30年度使用小学校教科用図書（道徳）調査報告書

教科名 道徳	種目名 道徳	教科書名 新しい道徳	発行者の番号・略称 2・東書
取扱内容	・物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる内容となっている。		
内容の選択 及び扱い	・教材については、発達段階に応じて、生命の尊重、伝統と文化、情報化への対応等の現代的課題などの多様な題材が用意されている。 ・生活に生かすことが出来る問題解決的な学習を取り入れることで、主体的に考え、自分の生き方を追求することが出来る。（3年生P71「なかよしだから」等） ・いじめ問題に対応した教材が配置しており、いじめをしない、許さない心を育てる内容となっている。いじめに関する教材は直接的な教材と間接的な教材と2つ連続で配置しており、重点的に学習できるよう工夫されている。（5年生P38「転校生がやってきた」P41「ノンステップバスでのできごと」等） ・情報モラルの教材が、発達段階に応じて用意されている。内容も、道徳の内容項目を学習できるものとなっている。（6年生P180「けいたい電話とのつきあい方」等） ・日常でおこりそうな場面を表した話を取り上げられており、子どもたちが自分の問題としてとらえ、考えることが出来る。（2年生P19「大すきなフルーツポンチ」等） ・困った場面のままで終わり、この後どうすればよいのかを考えることの出来る教材が、いくつか用意されている。（1年生P63「どんぐり」等） ・2年生以上では、一つずつ東日本大震災に関する教材が扱われており、防災に関する意識付けをねらうことが出来る。（2年生P111「いま、ぼくにできること」等） ・スポーツ選手や漫画家、音楽家といった幅広いジャンルの有名な人のエピソードを取り上げており、児童が興味を持ちやすいように工夫されている。（5年生P14「いつも全力で～首位打者イチロー」等） ・他教科の学習に繋がる教材が用意されている。また、教材には何の教科と繋がるのかも明示されており、関連づけて学習を進めることが出来る。（5年生P172「短歌によまれた美しい自然」→国語科・社会科 等） ・6年生では、戦争に関する教材（P44「白旗の少女」、P150「東京大空襲の中で」）が取り入れられ、平和教育にもつなげることが出来る。また、5年生でも、話の中で戦争に触れているものもある。（P79「折り紙大使～加瀬三郎」、P123「感動したこと、それがぼくの作品～パブロ・ピカソ」）		
内容の程度	・発達段階に応じて文章の長さが設定されており、無理なく学習に取り組むことが出来るようになっている。		

内容の構成 及び配列	・配置されている教材の数が、年間の授業時数と同じ（1年生34、2年生以上35）であり、計画的に授業を進められるようになっている。 ・学習内容が、学習指導要領の内容の4つの視点（A 主として自分自身に関すること、B 主として人との関わりに関すること、C 主として集団や社会との関わりに関すること、D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること）のどれにあてはまるのか明示されており、児童も内容を意識しながら学習に取り組むことができる。 ・各学年とも、教材が、学習内容の4つの視点ごとにバランスよく配置されている。 ・各学年2点ずつ「読み物教材」と「学習活動ページ」で構成された教材が取り入れられており、読み物で考えた道徳的価値を、学習活動によってより深めることができる。（2年生P99「学びゅうえんのさつまいも」等）
創意工夫	・各学年とも、最後に学習を振り返るページが設けてある。書く際に応用が利くよう、自由度の高い記入スペースとなっており、分量も適切である。 ・教材の最初または最後には、話し合ったり考えたりするための問いかけや、学習する上で大事なことが書いてあり、学習を進めやすくなっている。
使用上の 便宜	・印刷、製本が適切である。 ・文字の大きさや行間が適切であり、読みやすい。 ・色づかいはきれいであり、製本も丈夫である。 ・行数が分かりやすく示されている。
その他	・環境への配慮から、再生紙、植物油インキを使用している。

平成30年度使用小学校教科用図書（道徳）調査報告書

教科名	種目名 道徳	教科書名 かがやけみらい 小学校 道徳	発行者の番号・略称 11・学図
取扱内容	・教材文の世界を味わう「読み物」と、書き込みや体験的学習を促す「活動」に役割を明確化することで、「考え議論する道徳」「主体的、対話的で深い学び」が実現できる内容になっている。		
内容の選択及び扱い	・1年生の教科書でも、命に限りがあること（P95）や、「良寛」や「円谷英二」（P113）など著名人についても取り上げられている。また1年生から、かぼちゃのつる（P32）や14ひきのおつきみ（P36）などの物語が数多く載せられている。また、話しかけ方（P65）などのソーシャルスキルトレーニング的な内容も載せられている。 ・低学年のうちから、内容項目ごとに読み物教材が非常に豊富に用意されていて、活動でも気持ちや自分を振り返り書き込む内容が数多く構成されている。活動ではワークシートを貼ったり、マスなどで区切らずに、自由に考えたことを書いたりすることができる。 ・高学年になると、教材文から心情や行動を読み取るだけでなく、自分にできることや自分の役割を振り返って、それらを書き込む箇所が毎時間にわたって準備されている。 ・「活動」には、お家の人に自分のいいところを書いてもらうなど、家庭や地域と連携できるような内容や、他教科での学習内容との関連も取り入れられている。 ・現在、特に指導に配慮を要する「情報モラル教育」や「いじめ問題」「防災・安全教育」「キャリア教育」についても重点的に取り上げられており、指導の充実をはかることができる。		
内容の程度	・「活動」には、発問と書き込み欄が用意され、低学年では色塗りのできるページ（活動1年生 P7, P9 など）があり、発達段階に応じて活動が用意されている。		
内容の構成及び配列	・よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、内容項目ごとに読み物や活動がまとめられている。 ・1年間の授業時数分35本（1年生は34本）の教材文が掲載されている。各内容項目で、重点項目については複数の教材文が用意され、より深く学べるよう配慮されている。 ・最初に、道徳の時間に、何を学ぶのか、どうやって学ぶのかが書かれている。（各学年 P2） ・大切にしたい4つのつながりとして、「命のつながり」「人とのつながり」「文化のつながり」「夢のつながり」をもとに、学校の教育活動全体を通じて学べるよう編集されている。 ・読み物の構成は、内容項目ごとにまとめられているだけでなく、「自分自身のこ		

	と」「他人との関わり」「身の回り大勢の人たちとの関わり」「命や自然美しいものの関わり」という観点でもまとめられている。 ・活動は、それぞれの読み物教材から読み取ったり考えたりしたことを「やってみよう」、「かんがえよう」、「話し合おう」「みつめよう」に分けて学習できる。
創意工夫	・内容項目ごとに、人物の行動や気持ちを読み解いたり、自分との関わりを考えたりする読み物と、考え議論し学びを記録する活動がまとめられていて、2冊で学習を深めていくことができる。 ・活動中の「考えよう」では、教材を通して道徳的な判断力や道徳的価値の理解、心情理解に迫る発問があり、それらについて書くことができる。 ・発問については、中心発問や後段の発問など、それぞれ考えさせたい内容によって分けられている。 ・活動中の「みつめよう」では、教材文を通して考えたことをもとに、自分自身の行動や考えについて振り返ることができる。 ・1年「金のおの」(P92) 2年「まいちゃんのえがお」(P112) 6年「思いやりのかたち」(P62) などでは、「やってみよう」として、実際に動作化や劇化してみることで、より具体的に教材文を理解する機会となっている。 ・活動のヒントとして、声のものさしや、上手な話し方、ききかた、話し合いの仕方などが、活動の最後にまとめとして書かれている。(1～3年活動巻末) ・活動の巻末には、保護者の方へとして、この教科書で目指すことが書かれている。 ・活動に学習を通して考えたこと、学んだことを書き込むことによって、自分自身の成長の記録となるとともに、評価の観点としても活用できる。 ・各ページに内容項目が書いてあり、指導の観点が持ちやすい。
使用上の便宜	・A4よりも小さく、扱いやすい。 ・色を塗ったりワークシートを貼ったりすることもでき、振り返りがしやすい。 ・単元構成一覧があり、35週分の年間計画をたてやすい。
その他	・環境への配慮から、再生紙、植物油インキを使用している。

平成30年度使用小学校教科用図書（道徳）調査報告書

教科名 道徳	種目名 道徳	教科書名 小学道徳 はばたこう明日へ	発行者の番号・略称 17・教出
取扱内容	・多面的・多角的に考えられる教材が用意されており、児童が自分の考えを述べて、友だちの考えを聞いて、みんなで話し合う授業を行うことが出来る。 ・現代的な課題の中でも、「いじめをなくす」「情報モラル」「生命尊重」の3点には特に重点を置いて位置づけられている。		
内容の選択及び扱い	・いじめをなくすことに関する教材では、どれも身近にありそうな内容が取り上げられており、自分のこととして考えやすくなっている。6年生の「ひきょうだよ」(p78)では、直接いじめていなくても、傍観者もいじめをしている一人だということをはっきり示している。 ・6年生の「食事中的メール」(p36)では、内容項目は「節度・節制」だが、情報モラルの観点も入っており、携帯電話やスマートフォンの使い方を考えることにもつながっている。 ・生命尊重に関する教材として、2年生の「大切ないのち」(p100)が3学期に取り上げられている。生活科の生い立ち学習も3学期であり、他教科とつなげて学習を深めることができる。 ・偉人の話を多く取り入れており、その生きざまに学ぶことができるようになっている(2年生p116「虫が大すきーアンリ・ファープルー」等)。また、過去の偉人だけでなく、今のスポーツ選手の話も取り上げられており(5年生p106「悲願の金メダラー上野由岐子」3年生p57「ぼくらしさってなんだろう(白井健三)」)、児童が身近なものとして学べるようになっている。 ・6年生の「六千人の命のビザ」(p72)では、内容項目は「よりよく生きる」だが、平和教育にもつながる内容となっている。 ・各教材の最後には「学びの手引き」で複数の発問が用意されており、発問の項目を取捨選択することによって、学級の実態に応じた授業の展開ができる。 ・各学年補充教材が用意され、学校や地域実情に合わせて弾力的に活用できるようになっている。		
内容の程度	・発達段階に応じて文章の長さが設定されており、無理なく学習に取り組むことができるようになっている。		
内容の構成及び配列	・各学年とも、教材が、学習指導要領の内容の4つの視点(A 主として自分自身に関すること、B 主として人との関わりに関すること、C 主として集団や社会との関わりに関すること、D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること)ごとにバランスよく配置されている。 ・教材は内容項目ごとにまとめている。学年の初めは、自分自身に関する教材を多く配置したり、小学校の年間行事(運動会や遠足、発表会など)と関連させたり		

	するなどの工夫がなされている。
創意工夫	・各学年2～3点、モラルスキルトレーニングが取り入れられており、道徳的諸価値を実体験を通して理解し、行動化を図ることができる。(2年生p11「れいぎ正しいあいさつ」、6年生p40「安全についてみんなで考えてやってみよう」等) ・見開きの左上に、内容について記されており、この教材で何を学ぶのかが分かりやすくなっている。 ・写真やイラスト、資料が多く使われており、視覚的に見やすく、内容をイメージしやすいよう工夫されている。
使用上の便宜	・印刷、製本が適切である。 ・文字の大きさや行間が適切であり、読みやすい。 ・色づかいはきれいであり、製本も丈夫である。 ・行数が分かりやすく示されている。
その他	・教科書の印刷には、グリーン電力を使用し、環境への配慮をしている。また再生紙、植物油インキを使用している。

平成30年度使用小学校教科用図書（道徳）調査報告書

教科名	種目名 道徳	教科書名 道徳 きみが いちばん ひかるとき	発行者の番号・略称 38・光村図書
取扱内容	・学習指導要領に準拠し、漫画形式の教材や一枚の絵から考える教材、複数の資料と併せて考えられる教材、絵本を元にした教材など児童の発達段階に配慮した、興味・関心を引くような教材となっている。 ・いじめ防止、安全の確保、情報モラル、社会の持続可能な発展をはじめ、食育・健康教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、生命の尊厳などさまざまな現代的な課題が扱われている。		
内容の選択及び扱い	・全学年を通して、内容項目「生命の尊さ」について力点が置かれ、教材を3つずつ掲載している。 ・「生命の尊さ」については、全学年で1つ、生命誌研究者の中村桂子さんによる書きおろし教材となっており、児童の発達段階に即し、「命」についての学びが深められるように工夫されている。（6年 P134 命のつながり など） ・読み物だけでなく、グラフや表などの資料を掲載しており、児童がより自分のこととして考えやすくなっている。（4年 P136 より遠くへ 6年 P102 「働く」ってどういうこと？ など） ・生き方に学ぶ教材が多く掲載されている。伝記等で知られる先人だけでなく、パティシエの辻口博啓（3年 P164）、パラリンピック選手（走り幅跳び）の佐藤真海（4年 P132）、野球選手の大谷翔平（5年 P6）、車椅子テニスプレーヤーの国枝慎吾（5年 P122）のように、現在活躍している人が失敗や葛藤を乗り越えていく姿や自分の弱さを克服し強く生きる姿は、児童に勇気を与えるような教材となっている。 ・6年では、鳥羽市の萱島小学校の児童の活動（P107）や愛知県の共長小学校の6年生の活動（P148）、和歌山県の小学生の活動（P168）が掲載されており、児童が、これからの自身の行動を考えるのに適している。		
内容の程度	・児童の発達段階に配慮した多様な教材が、1年では34教材、2年以上は35教材、揃えられている。		
内容の構成及び配列	・各学年とも年間を4・5月「自己を見つめる」、6・7・9月「他者との関わりを見つめる」、10・11・12月「成長する自己と向き合う」、1・2・3月「より広く人や社会との関わりについて考える」の4つの学習のまとまりに分け、まとまりごとに視点の重点化を図っている。 ・内容項目間の関連に考慮し、より効果的なつながりや必然性をもった内容項目の配列となっている。（1年 6月から7月 礼儀→規則の尊重→節度、節制→正直、誠実→感謝→家族愛、家庭生活の充実） ・物事を多面的・多角的にとらえることができるように、低学年は年間2か所、3年以上は年間5か所、教材とコラムを組み合わせた「ユニット」が設けられている。（1年 P42 はしのうえのおおかみ【親切、思いやり】、P48 やめなさい【善悪の判断、自律、自由と責任】、P51 コラムこんなこと、してない？ など）		

	・教材を通して、児童が何を学ぶのかをはっきりと意識することができるよう、学習のてびき「考えよう」では、その時間のめあてが示されている。また、めあてに沿って、①教材の内容について、児童が同じ共通理解に立つための問い、②道徳的な価値に迫るための中心的な問い、③道徳的価値を自分や日々の生活に結び付けたり、問題解決をするためにはどうするとよいかを考えたりする問いが、教材に応じて示されている。 ・道徳で学んだことが、長期休業期間中の自主的な学びや家庭での話し合いにつながるように、低学年では、「夏休みの前に」(1年 P33 どんなことしようかな)「冬休みの前に」(1年 P96 どんなおてつだいできるかな)、3年以上は、「夏休みに調べてみよう」(6年 P68 持続可能な社会とは?)、「冬休みに調べてみよう」(6年 P148 国際親善—私たちにできること—)というコーナーが配置されている。
創意工夫	・2年以上には、学習のてびき「つなげよう」により、道徳の時間の学びが、次の行動につながるように配慮されている。他教科で学習する内容との関係づけ、特別活動との関連づけ、関連する内容をもつ図書の紹介、日常生活への意識づけなどを通して、計画的、発展的学習ができるように配慮されている。 ・2年以上の冒頭には、「道徳の時間は」が設けられており、主体的に考え、話し合うことが道徳であるということが、イラストや言葉でわかりやすく示されている。 ・発達段階を考慮し、無理なく考えを表現できるよう、低学年では、登場人物になったつもりでせりふを考えたり、役割演技をする中で自然に言葉にしたりできるようになっている。(1年 P68 ジングルジム) また、中学年では、登場人物になったつもりでセリフを考え、発表し合ったり、役割演技をすることや見ることを通して感じたことを議論できたりする発問が盛り込まれている。(3年 P108 係の仕事に取り組むとき) さらに、高学年では、教材本文のその後の展開を想像し、考えたことを発表し合ったり、役割演技をすることや見ることを通して感じたことを議論できたりする発問が盛り込まれている。(6年 P128 どうすればいいの?) ・全学年、4つの学習のまとまりの終わりに、学んだことを書き留めておく「学びの記録」がある。3年以上は、1時間ごとの感想などを書き込めるようになっている。加えて、1つの学習のまとまりが終わった時には、「まとめ」としてこれまでの振り返りやこれから生かしていきたいこと、自分が変わったと思ったことなどを書き込めるようになっている。また、発達段階を考慮し、1年は、教材ごとに3つの観点で色を塗るようになっており、2年は、教材ごとに3つの観点で色を塗ることに加え、1つの学習のまとめが終わった時の「まとめ」が書けるようになっている。
使用上の便宜	・ユニバーサルデザインの観点に立った編集とデザインがされ、すべての人が使いやすいよう配慮されている。 ・文字の大きさ書体、罫線や囲みの使い方、色遣いなどのレイアウトは適切である。 ・1年の片仮名には、見開きページの初出に振り仮名が付けられている。
その他	・環境への配慮から、再生紙、植物油インキを使用している。

平成30年度使用小学校教科用図書（道徳）調査報告書

教科名	種目名 道徳	教科書名 小学校道徳 生きる力	発行者の番号・略称 116・日本文教出版
取扱内容	・学習指導要領に準拠し、児童の興味や関心を高めるとともに、児童自身の経験を踏まえた思考を引き出しやすいように物語からドキュメンタリーまで、多様な教材が用いられている。 ・指導内容の重点化を図るべき内容については、各学年、原則複数教材配置されている。 ・学習指導要領で「配慮すべき事項」として示された事項（いじめの防止、安全の確保、情報モラル、社会の持続可能な発展）に関しては、重点的に教材が配置されている。		
内容の選択及び扱い	・1年では、ありがとうやあいさつ、あとかたづけなど基本的な生活習慣を身につけることのよさを考える教材が多く扱われている。 ・高学年では、ドキュメンタリーや伝記が多く扱われており、児童が問題意識をもって考えたり、感動を覚えたりしやすい教材となっている。（5年 P100 ひとふみ十年、6年 P98 杉原千畝） ・情報モラルについては、各学年で扱われているが、高学年では、「心のベンチ」でメールの使い方（5年 P144）や情報モラル（6年 P58）について考えることができるようになっている。 ・児童にとって身近な設定で、登場人物が悩んだり、葛藤したりする題材が多く扱われており、児童が自身の体験などを通して、自身の問題として捉え、道徳的価値について考えることができるようになっている。（5年 P40 たのむよ、班長 6年 P36 クラスのきまり など） ・各学年で、外国に関わる題材が扱われている。発達段階に応じ、あいさつなど身近なことから始まり、国際理解が進むように配慮されている。（1年 P66 学校へいくとき、4年いろいろな食べ方、6年 P124 エルトゥールル号―日本とトルコのつながり― など）		
内容の程度	・1年の初期段階は、「たのしいがっこう」（P6～P7）などのように絵を見て、考えたり、話し合ったりできるようになっており、発達段階に配慮されている。 ・児童の発達段階に配慮した多様な本教材が、1年では34教材、2年以上は35教材が揃えられており、児童が経験を踏まえて考えられやすいようになっている。		
内容の構成及び配列	・全学年、巻頭にオリエンテーションのページとして、道徳科を学ぶ意義や学び方などを児童の発達段階に応じてわかりやすく提示し、児童が学びに見通しが持てる。 ・発達段階への配慮とともに生活目標や学校行事、他教科の学習内容などとの関係を考慮し、一学期には低学年は、学級作り、学校生活、集団生活の充実、中学年は、人間関係の広がり、高学年は、よりよい人間関係の形成に関わる教材		

	が配列され、三学期には振り返りや深化、発展させられるような教材が配列されている。 教材ごとに、教材の狙いに迫るヒントとなる発問例「考えてみよう」や学習を通して学んだこと、わかったことを自発的に確かめ、生かしていくための発問例「見つめよう 生かそう」が掲載されている。
創意工夫	- 本文以外に巻末に「ふろく」として複数教材が掲載されており、学校の重点目標に応じて、複数教材を扱ったり、実態に応じて本文の教材と入れ替えて扱ったりすることができる。 - 問題解決的な学習や体験的な学習の手法を用いるのに適した教材の後ろには、指導の参考例として、「学習の手引き」がついており、児童が主体的・対話的に学べるように工夫されている。1年では、①いけないところを見つけよう。②いけないところについてかんがえてみよう。2年～4年では、①問題をつかもう。②問題について考えよう。③問題の解決を見つけよう。5年・6年では、①問題をつかもう。②自分なりに考えよう。③問題について話し合おう。④問題を解決するときにはたいせつな考え方について話し合おう。と発達段階に応じて、より深く考えられるように工夫されている。 - 道徳的価値を多面的・多角的に考えられるよう、「心のベンチ」には教材と関連した内容や活動が例示され、道徳科以外の教育活動とも関連付けられるよう工夫されている。 「道徳ノート」が付いており、授業のまとめで活用し児童が自身の成長を振り返ったり、友達の意見を記録することで他者理解を深めたりすることができるようになっている。 「道徳ノート」には、保護者記入欄により、家庭との連携が図れるように工夫されている。
使用上の便宜	- ワイドAB判を採用し、イラストや図版が大きく掲載されており、見やすい。 - 文字の大きさ書体、罫線や囲みの使い方、色遣いなどのレイアウトは適切である。 - 該当学年以上の漢字には、教材ごとにすべて振り仮名が付けられている。 1年の片仮名には、振り仮名が付けられている。
その他	環境への配慮から、軽量化した再生紙、植物油インキを使用している。

平成30年度使用小学校教科用図書（道徳）調査報告書

教科名	種目名 道徳	教科書名 小学道徳 ゆたかな心	発行者の番号・略称 208・光文
取扱内容	・道徳的な判断力、心情、実践意欲を育てるため、子どもたちの中から出てくる疑問を通して、主体的、対話的な会話が促進されるような内容となっている。 ・自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための道徳性を学び、それらを実生活へと生かしやすい内容となっている。		
内容の選択 及び扱い	・1年生の教材からパソコンやスマホについてのネットマナーやルール、SST（ソーシャルスキルトレーニング）などが取り上げられている。（P90） ・低学年のうちから、内容項目ごとに読み物教材が非常に豊富に用意されていて、学びのあしあとでは、気持ちに合う顔を描いたりまとめを書いたりする場所もある。また、1年生から48文字書けるマスが3カ所用意されている。 ・高学年になると、教材文から読み取らせたいことが「問い」「考える」「まとめる」「広げる」の視点で書かれているとともに、考えたことや気づいたことを道徳ノートにもまとめられるようになっている。あしあとにまとめるのは、一言ずつ毎時間分用意されている。 ・学習指導要領に示されている「児童や学校の実態に応じ…内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなど…」を受け、連続的に扱うことでより効果が得られる教材を設定している。 1・2年生「善悪の判断、自律、自由と責任」「節度、節制」「生命の尊さ」 3年生「規則の尊重」「友情、信頼」「よりよい学校生活、集団生活の充実」「生命の尊さ」 4年生「規則の尊重」「友情、信頼」「生命の尊さ」 5年生「相互理解、寛容」「勤労、公共の精神」「生命の尊さ」 6年生「規則の尊重」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「生命の尊さ」6年P139～P148 ・現在、特に指導に配慮を要する「情報モラル教育」や「いじめ問題」についても重点的に取り上げられており、指導の充実をはかることができる。		
内容の程度	・学びの足あとで、授業を通して気づいたことや考えたことを振り返りまとめるページがあり、それらは発達段階に応じた内容となっている。		
内容の構成 及び配列	・より深く考えさせたい内容を「重点課題」として複数時間で扱い、続けて学習することで道徳的価値をより深く理解することができる。 ・1年間の授業時数分35点（1年生は34点）に加えて、学校、地域の実態に応じて入れ替えられる教材5点（1年生は6点）の合計40点の教材が用意されている。 ・オリエンテーションにより、1年間の学習の見通しを持つことができる。		

	・各教材文の内容が、「自分自身のこと」「他の人のこと」「集団や社会のこと」「命や自然の大きな力のこと」「その学年で特に考えたいこと」でまとめられ、その中に内容項目別の一覧になっているページがある。さらに、その一覧に、それぞれの教材の関連性のある内容項目が付け加えられており、児童の実態に応じて、多面的多角的な観点から指導できるようになっている。
創意工夫	・「読書活動」「名言名句」（２年 P143 など）に親しみ、「やってみる」などの体験的な活動（３年 P14 など）を行ったりするなどの内容も盛り込まれている。 ・各学年のはじめに「主体的・対話的で深い学び」につなげるために、道徳の学習の流れをおさえて学習の見通しを持つためのオリエンテーションが用意されている。 ・各ページの最初には、教材から考える中心的な発問が書かれており、まとめでは、授業を振り返り、授業後の活動へとつながるようになっている。 ・内容として、定番の読み物だけでなく、著名人の実話があったり、ドラえもんやちびまる子ちゃんなど子どもたちにとって身近な漫画やアニメのキャラクターが登場したり、課題や学習内容を提示するページがあったりして（１年生 P130 など）様々な手法により、子どもたちが道徳的価値に触れたり、考えたりできる工夫がみられる。 ・学習効果を高めるため、毎時間、導入、展開、終末、発展、学習の振り返りが設置されていて、１時間の授業の見通しが明確になっている。
使用上の便宜	・A4 版に近い大きな紙面で、見やすい紙面となっている。 ・１～３年生は、全ての漢字に振り仮名がつけられている。 ・前学年までの漢字を使用し、難しい言葉は脚注も書かれている。 ・色の区別や文字の大きさなどに配慮が必要な子どもたちにも扱いやすい工夫がある。
その他	・環境への配慮から、再生紙、植物油インキを使用している。

平成30年度使用小学校教科用図書（道徳）調査報告書

教科名 道徳	種目名 道徳	教科書名 みんなの道徳	発行者の番号・略称 224・学研
取扱内容	・「自己の生き方を考え、主体的な判断のもとに行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」という目標に合わせ、体験的な学習や問題解決的な学習、多面的・多角的に考えられる内容となっている。 ・肯定的な見方や前向きな考え方が出来るような教材が多く、未来に向かって歩み出そうとすることが出来る内容である。		
内容の選択及び扱い	・魅力ある教材群で、児童の学びたいとする気持ちを大切にした多様な教材が、1年では34教材、2年以上は35教材が揃えられている。 ・自分の特徴に気づくことや人との関わりの内容では、どの学年でも先人やスポーツ選手などの実話を元にしてしている。身近な人を取り上げ、親しみを持って取り組めるようになっている。特に、現在活躍している選手や金メダル選手を取り上げている。（1年生：錦織圭、2年生：石川佳純、3年生：上野由岐子と高橋尚子、大日方邦子、4年生：吉田沙保里、なでしこジャパン、5年生：内村航平、浦田理恵、6年生：羽生弓弦、荒川静香、ラグビー日本代表） ・「B 主として人との関わりに関すること」については、低学年の読み物は登場人物を動物にし、中学年では、友だちを意識したものになっている。 ・どの学年にも「いのちの教育」を取り入れ、生命の尊さを重んじ、他者と共によりよく生きるための教材が使われている。特に小児がんにかかった子どもなど、自分たちに身近な存在で亡くなった子どもの思いなどを取り上げている。また祖父の死など、家族のことも取り上げ、実際にありそうな話を載せてあり、現実のこととして考えられる。5年「電池が切れるまで」（P30～33）6年「その思いを受けついで」（P40～45）、6年「命を見つめて」（P88～91） ・いじめ防止につながる教材がたくさん取り入れられている。実際にあり得そうな場面の読み物が多く、自己を見つめ、心を揺らしながら考え、これからの生き方を考えることができる。 ・全学年に東日本大震災のことが扱われている。 ・情報モラルは発達段階に合わせて全学年に取り入れられている。特に6年生ではラインのやりとりを取り上げ、より身近に考えられる。		
内容の程度	・どの学年も読み応えのある内容で、しっかり読み込む必要があるが、児童の発達段階を考慮したものになっている。		
内容の構成及び配列	・見開きで話がかかれていてわかりやすい。さらに次のページで話の続きと、考えを書くページとなっていて、すぐに書き込めるようになっている。 ・巻頭に道徳の学習の学び方が示してある。 ・各教材を「自分を生かす」「共に生きる」「社会に役立つ」「命を愛おしむ」の4つに分け、バランスよく配置している。		

創意工夫	・教材毎に最後に考える視点が表示してあったり、考えや思いを書き込むようになっていたりして、問題解決的な学習の道筋を提示している。 ・読み物が完結しているのではなく、続きを考えたり、例が示してあってどれに考えが近いか選んだりするようになっていて、答えが一つではない、多角的・多面的な見方や考え方ができるようになっている。1年生「ないちゃった」(P108～109) 1年生「だれも見えていない」(P50～51) ・歴史上の人物や世界的な研究者や功績があった人、ノーベル賞をもらった人など、児童に出会わせたいと思う人物が発達段階に合わせてたくさん入っている。(1年：ファールブル、やなせたかし、2年：野口英世、まどみちお、3年：ナイチンゲール、水木しげる、二宮金次郎、4年：ヘレン・ケラー、木村秋則、山口絵理子、アルブレヒト・デューラー、ジョン万次郎、宮沢賢治、石川三郎、5年：ワングリ・マータイ、牧野富太郎、手塚治虫、新渡戸稲造、ジャンバルジャン、西岡常一、6年：嘉納治五郎、リンカン、ウォルト・ディズニー、マザー・テレサ、大村智、小川笙船、南方熊楠など) ・3つの話を続けて考えてから、感想を書くという新たなスタイルがある。 ・4種類の「学びのページ」〈ふかめよう〉〈つなげよう〉〈やってみよう〉〈ひろげよう〉によって、多様な学びが展開できる。 〈ふかめよう〉自分や相手の気持ちをより深く考える。また、グループでの話し合いなどの設定がしてある。 〈つなげよう〉関連したことにつなげていくことができる。 〈やってみよう〉読み物の登場人物になって、役割演技をし、演技してみても自分はどうか感じたか、演技を見ていてどうか感じたか考える設定がいくつか入っている。また演技する場面もしばってある。(低・中学年中心) 〈ひろげよう〉関連したことを追加し、視野を広げることができる。 ・2年生の「メイとケンプ」(P36～37)では、「きっぱりと考えを言いました。」と書いてあるが、その言った言葉を書かずに話が進み、どう言ったのか考えるようになっている。 ・子どもたちに親しみのあるディズニーについて取り上げている。6年生(P58～62) ・6年生の「ロレンゾの友だち」(P63～69)という教材文を読む前に、友だちについて考えさせるチェックがあり、自分の考えを持ってから学習に入るように工夫されている。 ・漫画も取り入れ、子どもの興味を引くようになっている。
使用上の便宜	・A4サイズ、フルカラーで、挿絵や資料が大きく豊富に盛り込まれている。文字も大きく見やすい。 ・写真が大きくて見やすく、ビジュアル的にも大変美しい。 ・難意語句は教材文のすぐ上で解説をしている。
その他	・環境へ配慮してつくられた紙、植物油インキを使用し、環境負荷の小さい方式で印刷している。さらにリサイクル性の高いのりを使用して製本している。

平成30年度使用小学校教科用図書（道徳）調査報告書

教科名 道徳	種目名 道徳	教科書名 みんなで考え、話し合う 小学生の道徳	発行者の番号・略称 232・廣あかつき
取扱内容	・教育基本法第2条に示された教育目標を達成するために、教材を元に考え、話し合う協働的な学習を通して、多面的・多角的な思考を促し、自己の生き方について考える教材となっている。		
内容の選択及び扱い	・どの学年でも著名な先人や現在のスポーツ選手などの話を取り入れている。美談ではなく、小さい頃の様子や失敗談もあり、あきらめずに努力をしてきたことが今につながっていることを教えてくれている。 ・どの学年にも「命の教育」を取り入れ、生命の尊さを重んじ、他者と共によりよく生きるための教材が使われている。また重点的に学べるよう、2時間連続で配置してある。特に、高学年では、祖父母の死やがんなどの病気になった方の死を取り上げていて、胸にせまるものがある。5年生23番「その思いを受けついで」24番「明日もまた生きていこう」(P91～101) ・いじめに関する教材が全学年取り入れられている。実際にあり得そうな場面の読み物があり、自分のことにてらして考えることができ、これからの生き方を考えることができる。4年生「正しいことは勇気をもって」(P80～81) ・国際理解教育に関連した内容が全学年に取り入れられている。 ・情報モラルは発達段階に合わせて全学年に取り入れられている。特に高学年では、身近に起こりそうなことを取り上げ、より危機感を持って考えられるようになっている。5年生「ちゃんとやれよ」(P84～85) ・低学年の読み物は登場人物を動物にし、中学年では、友だちを意識したものになっている。 ・防災教育が中学年から入っている。		
内容の程度	・1年生の最初は、絵だけの教材が複数有り、発達段階に合わせ、わかりやすく、なっている。 ・高学年になると、1教材が6ページにもなって、読み応えのある内容となっている。専門的な語句の解説はあるが、事前に読み込んでおく必要がある。		
内容の構成及び配列	・読み物の最後に、「考えよう・話し合おう」として、「学習の道筋」が示されている。「学習の道筋」が複数示され、考えさせたい内容が明らかになっている。 ・授業をする場合、教材を読み、「学習の道筋」で考えさせ、さらに、ノートで自分のことを考えたり、書かせたりする構成となっており、1時間充実した内容となっている。 ・35教材（1年生34教材）と、年間の配当時数分掲載してある。 ・2年生以降の巻頭で、「道徳の時間はこんな時間」とするオリエンテーションが示されている。		

	・4つの項目がバランス良く配置されている。 ・別冊ノートに書くことを通して、自問と内省へと導き、道徳的思考を深め、内容を理解させる方法をとっている。 ・別冊のノートは、4つの項目別に色分けがされており、わかりやすくなっている。
創意工夫	・巻末で各教材文を「自分を見つめて」「人とともに」「みんなとともに」「命を感じて」の学習指導要領が示す内容の各項目に対照する表がある。 ・5年生と6年生の両方に「章太と孝治」という題の話がある。共に仲良しの二人でそこに女の子が加わるという話の筋が同じである。学年を超えてつづきになっている。5年生「章太と孝治」(P10～15)6年生「章太と孝治」(P44～49) ・「学習を広げる」と題し、教材に関係した知識理解や道徳的諸価値をさらに深める内容(人物や本の紹介、格言など)主体的な活動を促す内容(役割演技、調べ学習など)を載せている。 ・別冊ノートは、先生や家の人に見てもらって、サインをする場所があり、保護者と連携して進めることができる。 ・別冊ノートは、「心のしおり」というのがあり、書いたページがわかるようにしおりをはさめるようになっている。
使用上の便宜	・AB版でワイドになっている。フルカラーで文字も学年に合わせて大きさが変えてある。 ・表紙が堅く、丈夫である。 ・未習の漢字について、ページ初出のみではなく、すべてにルビがふってある。 ・ノートが別冊なので、道徳に限らず活用でき、提出もしやすい。 ・ノートが教科書の後ろに挟み込むようになっている。そのため教科書の背表紙が広い。 ・ノートは、学年別に発達段階に応じたマスの大きさや罫線の幅を考慮してある。 ・難しい語句の解説が本文のすぐ下にあり、わかりやすくなっている。
その他	・教科書や別冊ノートの裏表紙に、「保護者の皆様へ」として、道徳が教科化されたことやこの本のねらいなど書いてある。 ・環境に配慮した紙、植物油インキを使用している。